

そよ風通信

〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8 TEL/0568-88-0811 FAX/0568-88-0839 <https://www.pref.aichi.jp/addc/>

第13回あいち小児在宅医療・福祉・教育研究会を開催しました ～テーマは「学校教育と医療的ケア」～

2025年12月14日（日）に名古屋大学医学部附属病院中央診療棟講堂にて、第13回あいち小児在宅医療・福祉・教育研究会を開催いたしました。

今回は「学校教育と医療的ケア」をテーマに、学校活動の中に医療的ケアの支援がどのように進められてきたのか、その実際と課題を学ぶ機会としました。

研究会当日は医療関係者始め、教職員や相談支援専門員など、多くの方々にご参加いただきました。

参加者からは「行政、学校看護師、保護者、教員など多職種の講演が聞けて参考になった」「普通学校での医療的ケアは手探りのところがあり、各市町の取り組みを聞く機会がなかったのととてもよかった」「学校の現状、医療的ケア児の保護者の思い、春日井市の取り組みなどを知ることができてよかった」などのご意見・ご感想をいただきました。

また、当日は、名古屋大学の皆様にも運営にご協力いただき、誠にありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。
(地域支援課医療的ケア児支援グループ 川井由紀)

第13回

あいち小児在宅医療・福祉・教育研究会

特別支援学校での医療的ケアの取り組みが進展、地域の公立・私立小中学校や保育所で医療的ケアが広がってきています。今回は「学校教育と医療的ケア」をテーマに、学校活動の中に医療的ケアの支援がどのように進められてきたのか、その実際と課題を講師と学ぶ機会を用意しました。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

愛知県医療療育総合センター 院長 石川 直樹
名古屋大学医学部附属病院中央診療棟 特任教授 丸山 幸一
愛知県医療療育総合センター 中央病院 副院長 丸山 幸一

- 日時 **2025年12月14日（日） 13:00～16:10**
- 場所 **名古屋大学医学部附属病院 中央診療棟 A 3階 講堂**

●プログラム●

13:00～13:05 開会のあいさつ
石川 直樹 (愛知県医療療育総合センター 院長)

13:05～14:05 基調講演
「学校における医療的ケアの歩みと現状・課題」
座 長: 丸山 幸一 (愛知県医療療育総合センター 中央病院 副院長)
講演者: 榊原 正憲 (愛知県立春日井南中学校 校長)

14:25～16:05 シンポジウム「愛知県内各所での取り組み」
座 長: 大橋 麗子 (名古屋大学大学院 看護学研究所看護学専攻 准教授)
山田桂太郎 (愛知県医療療育総合センター 中央病院 医師)

I 「医療的ケア児を育て、12年。今、思うこと」
発表者: 榊原 正憲 (医療的ケア児の保護者)

II 「学校看護師の役割」
発表者: 清水 美奈子 (愛知県立名古屋特別支援学校 看護師)

III 「春日井市立小中学校における医療的ケアの充実について～看護師配置による医療的ケアの実態～」
発表者: 榊原 正憲 (春日井市立南中学校 校長) 榊原 正憲 (春日井市立南中学校 校長) 榊原 正憲 (春日井市立南中学校 校長) 榊原 正憲 (春日井市立南中学校 校長)

16:05～16:10 閉会のあいさつ
司 会: 丸山 幸一 (名古屋大学大学院看護学専攻准教授) (愛) 医師 川井由紀 (特任講師)

●申込・お問い合わせ先 (事務局)
愛知県医療療育総合センター 療育支援センター
〒480-0392 愛知県春日井市神屋町713-8 TEL 0568-88-0811 (内線 8105・8106)
地域支援課 担当 川井・余香・輪田

参加費 無料

定員 150名

Contents

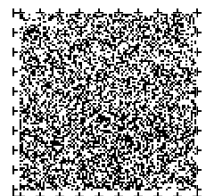
第13回あいち小児在宅医療・福祉・教育研究会を開催しました 1

褥瘡対策チーム（PUT）の紹介 2

中央病院 新任医師の紹介 3

発達障害研究所 研究の紹介 3

はるひの家縫製ボランティア卒業!黒柳さんの紹介 4



健やかな肌と笑顔を守る —重症心身障害児・者への褥瘡対策チームの取り組み—

重症心身障害のある方を含めた当院に入院されている方々は、ご自身で体を動かすことが難しく、また骨格の変形や拘縮（こうしゅく）を伴うことも多いため、皮膚の一部に圧力が集中しやすく、褥瘡（床ずれ）が発生しやすいリスクを抱えています。私たちの施設では「健やかな肌」と「安楽な生活」を守るため、専門スタッフによる「褥瘡対策チーム（PUT）」を組織し、多角的な支援を行っています。

■ 専門性を結集した多職種チームの力

褥瘡対策は、単に傷を治すことではありません。当チームは、医師、看護師、理学療法士（PT）、管理栄養士など、異なる専門性を持つプロフェッショナルで構成されています。リスクがある方に対し「褥瘡回診」を行い、皮膚の状態を細かくチェックするとともに、リスクアセスメントに基づいた個別ケアプランを策定しています。

■ 「攻め」の姿勢で行う予防的アプローチ

褥瘡対策で最も重要なのは、発生を未然に防ぐ「予防」です。リハビリスタッフは、体圧を分散させるためのクッションの選定や、骨の突出に合わせたポジショニング（姿勢調整）を細かく検討します。また、看護スタッフは、日々のスキンケアや適切な体位変換を徹底し、皮膚のわずかな変化も見逃さないよう連携しています。さらに、管理栄養士は、皮膚の再生を促すための高タンパク・高エネルギーな栄養管理をサポートし、体の内側からも褥瘡に負けない体づくりを支えています。

■ 「心地よい暮らし」のために

褥瘡の予防・改善は、痛みを取り除くだけでなく、車椅子での活動時間を増やし、療育や行事への参加を可能にします。私たちは、ただ「傷を作らない」ことにとどまらず、患者様・利用者様がより快適に、笑顔で毎日を過ごせる環境を整えることを最終的な目標としています。

褥瘡対策チームはこれからも、多職種が手を取り合い、「いのち」と「暮らし」に寄り添い続けてまいります。ご不安や相談があれば遠慮なくお問い合わせください。入院では各病棟の褥瘡対策委員が褥瘡対策の窓口になっております。外来では看護スタッフにお問い合わせください。

褥瘡対策チーム 木村智靖（皮膚・排泄ケア認定看護師）



新任医師の紹介 中央病院

小児外科 2026年4月～



柴田 淳平 医師

つい先月までは消化器外科、乳腺外科医として手術をしていました！小児外科医としてイチからのスタートになります！皆様に教えて頂くことばかりかと思いますが、優しく厳しく？ご教授下さい！

【趣味・特技：ランニング】

麻酔科 2026年4月～



伴 泰考 医師

H17年卒で21年目の麻酔科医です。キャリアの長い期間を公立陶生病院で過ごしてきました。1年だけ静岡こども病院にいたので小児の経験も多少ありますが、ほとんど成人の麻酔をしてきました。新たな経験になる部分もあると思うので手探りながらやっていこうと思います。

【趣味・特技：ソフトテニス】

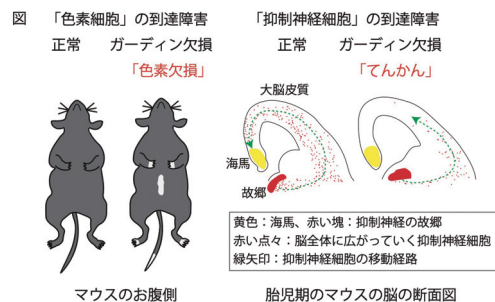
研究の紹介 発達障害研究所

発達障害研究所 障害モデル研究部 主任研究員 飯田真智子



私は神経の病気である「てんかん」を研究しています。以前は、肌の色をつくる色素細胞を研究していました。色素細胞と神経細胞は一見無関係ですが、実は共通祖先から生まれた“いとこ”のような存在です。私は「ガーディン遺伝子」を欠損したマウスが、ヒト重症てんかんに似た症状を示すことを国際誌エPILEPSIA*に報告しました。マウスを観察していると、お腹の中央や手足の指先だけ色素が抜けていることに気づきました(図)。ここは、胎児期に色素細胞が体中に広がっていく時の最果ての地なので、到着が遅れやすい場所でした。同じ発想を脳に当てはめ、抑制神経細胞が広がっていく最果ての地である海馬への到着が遅れたことがてんかん発症の原因であること突き止めました。今後は、ガーディン遺伝子に限らず、てんかん発作がいつどのように始まり収まるのかという普遍的な謎に挑みたいと考えています。

私は神経の病気である「てんかん」を研究しています。以前は、肌の色をつくる色素細胞を研究していました。色素細胞と神経細胞は一見無関係ですが、実は共通祖先から生まれた“いとこ”のような存在です。私は「ガーディン遺伝子」を欠損したマウスが、ヒト重症てんかんに似た症状を示すことを国際誌エPILEPSIA*に報告しました。マウスを観察していると、お腹の中央や手足の指先だけ色素が抜けていることに気づきました(図)。ここは、胎児期に色素細胞が体中に広がっていく時の最果ての地なので、到着が遅れやすい場所でした。



* Iida M *et al*, Gardin deficiency causes developmental and epileptic encephalopathy with hippocampal sclerosis and interneuronopathy. *Epilepsia*, 66(2):599-617, 2025. doi: 10.1111/epi.18204

はるひの家 縫製ボランティア卒業！黒柳 光子さん(90歳)



地域に尽くして21年。その献身を称え、当センターより感謝状を贈呈しました。表彰の場で伺ったのは、柔らかな笑顔に秘めた情熱。一針一針に想いを紡いだ黒柳さんの歩みを辿ります。



定年後の第2幕。針一本で挑む「社会貢献」という舞台 — 「世の中の役に立ちたい」という一心で、定年後からボランティアの道を歩んできた。原動力は「縫製が好き」という純粋な情熱だ。運転免許返納後も息子の送迎という支えがあったのは大きかった。

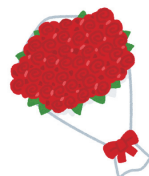
好きだからこそ、ひと工夫。魔法の針仕事 — 「お気に入りの服を長く着てほしい」と語る黒柳さんは、補修布に可愛い柄を選ぶなど持ち主が笑顔になるようなプラスアルファの工夫を惜しまない。構造が複雑な最近の服にも、確かな技術と使う人への温かな眼差しが込められている。



羊の毛から始まった、一生もの手仕事 — 裁縫のルーツは、驚くことに小学生時代まで遡る。当時は羊の毛を自ら染め、毛糸を作るところから編み物を楽しんでいたという。その後も和裁にとどまらず、教室へ通って基礎から学んだ洋裁、色合わせの妙を楽しむパッチワークなど、飽くなき探求心で技術を習得してきた。



世界を泳いだタフな精神、ボランティアでの「皆勤賞」へ — 50歳から30年間続けてきた水泳で鍛えた強靱な心身が、彼女の源動力である。かつては世界大会（オーストラリア）にも出場し、金メダルを手にした実力者。「試合も練習のつもりで楽しむ」というタフな精神力は、90歳を迎えた今も健在だ。そのバイタリティで、ボランティア活動はなんと「皆勤賞」だった。



～はるひの家から黒柳さんへ感謝の思い～

21年間という長い間本当にありがとうございました！黒柳さんの手から生み出された補修の数は、累計6,500点以上にのぼります。ボランティアの日だけでは終わらない依頼はご自宅に持ち帰り、一つひとつ丁寧に仕上げてくださり、感謝の気持ちでいっぱいです。これからは黒柳さん自身の時間を思いっきり楽しんでください！



外来の詳細については、ホームページでご確認ください。

外来担当医表 <https://www.pref.aichi.jp/addc/eachfacility/tyuuou/time/index.html>

予約について https://www.pref.aichi.jp/addc/eachfacility/tyuuou/clinic/index_medical.html#p_11

交通アクセス <https://www.pref.aichi.jp/addc/access/index.html>